

令和2年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

西条市教育委員会
モデル地区：橘小学校区
モデル校：西条市立橘小学校

1 取組の目的

- 1 児童生徒が災害について正しく理解し、学校・家庭・地域の防災活動において的確な安全確保行動をとるとともに、自他の命を守るため主体的に行動できる能力を身に付ける。
- 2 災害時における学校の役割を理解し、児童生徒の命を守るために対策・対応ができるよう、教員の資質を高める。
- 3 防災教育の取組を推進するため、拠点校に中核となる教員を位置付け、学校と地域との連携及び災害に対する専門家等からの指導・助言により、学校防災・地域防災の実践的な知識を習得する。
- 4 全ての学校において、危機管理マニュアルの見直しを実施し、さらに、避難所運営マニュアルの整備を図る。

2 取組の内容

8月12日 現地研修会「新居浜市防災センター」



市や地域で防災に関わっている人などからなる実践委員、教職員が最新の防災について学んだ。「災害を疑似体験し、災害対応力を身に付ける」ことを目的として学習の場が設定されており、「自助」や「共助」について学ぶことができる。研修を通して深め、共有したことを教職員全体に伝えることで、防災教育において、具体物や映像資料、体験が非常に大切であることや家庭との連携を組み込むことが重要であることを再度確認できた。

9月10日 防災教室「えひめ川の防災プログラム」「砂防学習会」



全校児童が防災について基礎的・基本的な知識や理解を体験しながら学ぶため、愛媛県土木部河川港湾局主催の「えひめ川の防災プログラム」「砂防学習会」を防災教室として行った。水中歩行体験や、降雨体験、土石流3Dシアター体験を実施し、模型を使って土砂災害の仕組みについて学習した。風水害に備え、正しい情報を得て安全な場所へ正しく避難することの大切さを学んだ。

9月11日 緊急地震速報を活用した避難訓練の実施



掃除の時間中に震度7(南海トラフ巨大地震)の揺れが起こった時の様々な想定を行った。

- | |
|---|
| <p>想定① 停電によって、校内放送ができない。(教頭が拡声器やポータブルマイクを準備。揺れがおさまって2分以上指示がないときは教職員各自で判断。)</p> <p>想定② 壁が崩れたり、ガラスが割れたりしているところがある。(気をつけるよう児童に指導。)</p> <p>想定③ 教員一名が意識不明のけがをして、避難場所にはいない。(捜索し、AEDによる心肺蘇生。倒れている場所は教員には知らせない。)</p> <p>想定④ 子どもが逃げ遅れて、避難場所にはいない。(子どもがいないことは、教員には知らせない。)</p> <p>想定⑤ 雨が降っていたので、避難場所が運動場になるか体育館になるかはその時判断する。</p> |
|---|

児童は、それぞれの場所に応じた身の守り方ができていた。しかし、階段や廊下、ガラス(ペットボトルで代用)の飛散している場所を早歩きをしている児童が多く、再度の指導が必要であった。掃除中であったので、高学年が低学年を優しくリードしたり、体育館に逃げ遅れた友達の名前を教員に伝えたりして、共助を意識している児童もいた。教職員にとってもたくさんの学びのある避難訓練となった。避難場所での児童の確認方法、捜索や応急手当をする際に重要なこと、体育館での児童の落ち着かせ方などの反省を教職員で共有し、改善を行うことができた。

10月1日 防災に関する出前授業



講師を迎え、6年生の総合的な学習の時間の一環として、防災グッズ、家具固定について授業を行った。児童だけではなく、保護者にも案内、参加していただき、授業を受けることで、防災対策の必要性を感じていただいた。

10月14日 防災マップづくり



防災に関しては地域の方と連携していくことが大切だと考え、地域の防災士の方などと一緒に校区内を回り、防災に関わる危険箇所、安心・安全箇所や災害を防ぐ地域の取組等について調べた。タブレットを活用し、探検中に危険箇所や安心・安全箇所をマークしたり地域の説明を録音したりしながら、橘オリジナル防災マップを作成した。探検後には、自分たちが作成した防災マップをグループで確認し、校区のどこに、どんな危険箇所、安心・安全箇所が多いのか考察した。防災マップづくりを通して、分かったことを全校児童に伝えるために、動画を作成し、電子黒板を活用して、他の学年も視聴・学習することができるようにした。発表動画を見て、今まで知らなかった橘校区の危険箇所や安心・安全箇所に気付いている他学年の児童が多くいた。

11月21日 防災教育講演会



愛媛大学防災情報研究センター副センター長の二神透先生を講師にお迎えし、防災に関する講演を行った。本校教職員・全校児童、保護者、実践委員会の構成委員が参加した。講演は、「かけがえのない命を守るために」というテーマで、南海トラフのような巨大地震が起きたとき、西条市でどんなことが起きるのか、どのような被害があり得るか、

また、被害を最小限に抑えるための心掛けや実践しておく事柄等を学んだ。

12月16日 研究発表会



発表会では、「地震災害に対して、自分たちにはどのようなことができるだろう」をテーマに、6年生が公開授業を行い、市内外から沢山の関係者が参観した。コロナ対策のため、出席者が密にならないよう授業の様子を別の2教室へオンライン配信した。その後、全体会として橘小学校の防災教育に関する1年間の取組発表、取組に関する意見交換、愛媛大学防災情報研究センター副センター長の二神透先生による指導助言を行った。

3 取組の成果

- 学校教育の中で、教職員や児童に防災・減災という意識を高めることができた。
- 橘小学校地区は、これまでも先進的に防災活動を地域で進めていたが、さらに取組が推進された。
- 専門家を交えた実践委員会を開催することにより、学校単独で学びを深めていくよりも専門的な知識や地域の実情に合わせた話を聞くことができ、より実践的で地域と関わりのある防災教育ができた。
- モデル校での防災教育全体の取組を他校の教員が参観することにより、各校での実践につながる参考となった。教員自らが知識を得て、地域の現状を知り、防災教育の在り方を学ぶことができた

4 今後の課題

- 防災・減災教育を進めていく上では、どうしても費用がかかる。取組を継続していくため、あるいは他地域への広がりを進めていくためには、教育を支援する費用の確保が課題である。
- 多くの地域では高齢化が進んでおり、「自主防災」を市民のみで進めていくことは困難な状況にある。市としての支援体制が必要となる。